社会医療法人
大雄会

地域医療連携広報誌

つながる医療

特集インタビュー

犬飼 智雄 医師
いぬかい　ともお

総合大雄会病院
整形外科 統括部長

【 主な資格 】
- 日本整形外科学会専門医
- 日本整形外科学会認定リウマチ医
- 日本整形外科学会認定
  運動器リハビリテーション医
- 中部日本整形外科災害外科科学会
  評議員
- 臨床研修指導医
- 医学博士

外傷による損傷をはじめ、機能を回復するための治療を目指しています。

整形外科 統括部長
名古屋市立大学医学部 臨床教授

犬飼 智雄

犬飼先生は、主にどんな治療に携わっていますか？

整形外科は、骨･関節などの骨格とそれを取り囲む筋肉、これらを動かす神経などのしくみを総称する運動器官を扱う科です。対象となるのは、骨折、変形性関節症、関節リウマチ、末梢神経障害が多いです。

私個人は、少しの障害でも日常生活に支障をきたす繊細な運動･知覚器官である手のしびれにこだわって治療をしています。その研究成果は国際学会でも発表しています。神経とは、まさに神が通る道。その脇を掃除する作業（手術）を私は人生のライフワークにしています。

整形外科のアピールポイントを教えてください。

整形外科の治療は手術だけでなく、手術をしない保存的な治療も多いです。そのためリハビリとの連携は不可欠で、作業療法士（OT）と月1回カンファレンスを開催し、積極的にリサーチを含めた治療を行っています。また、ケガなどで入院されてはいますが、元々元気な患者さんが多いので、病棟が明るいことも特徴です。今は車社会になり運動不足による病気の方も増えていますので、今後は地域社会と一緒になって体操教室などの啓蒙活動に取り組んでいきたいと考えています。

外傷･骨折はもちろん関節の痛みや、手･足が痛い、しびれる、麻痺などの症状、手足･背骨が変形するなどがみられる場合は、当科にご相談ください。

今までで印象に残っている症例について教えてください。

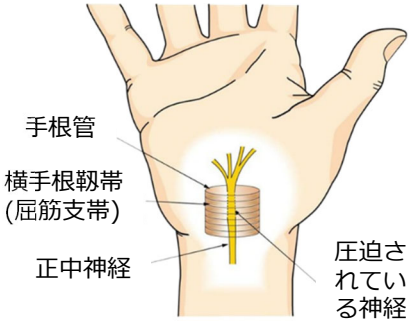
少し重い話ですが医師として7年目の時、ある患者さんが高所転落、交通外傷による下腿切断（切断足あり）という重症で搬送されてきました。残念ながら再接着手術は上手くいかなかったため、患者さんの足は失われてしまいました。その瞬間、患者さんと同じくらいショックを受けましたが、医師として障害を受け止める度量が求められる瞬間だと感じました。私は、黒くなった足を一生背負って生きていく覚悟をしました。その後患者さんは、義肢装具を装着してリハビリに励み、元気に社会復帰していきました。私は、その光景を思い出すと今でも涙がこみ上げてきます。

手根管症候群（しゅこんかんしょうこうぐん）について教えてください。

【原因と症状】

親指から薬指のしびれと痛みが主な症状で、明け方に強く、薬指は親指側半分だけという特徴があります。親指の付け根の筋肉（母指球筋）の麻痺も起こるため、ボタンかけや縫い物など、つまむ動作に不自由がでてきます。

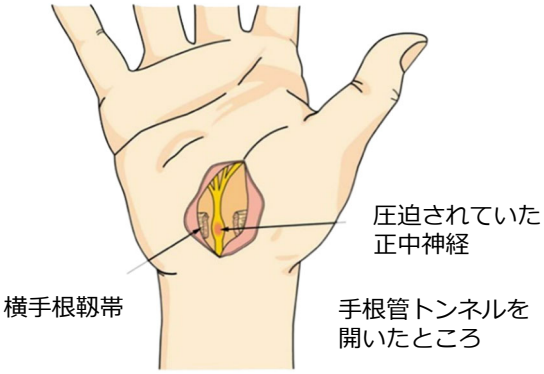
これは手のひらの手根管と呼ばれる部位にある横手根靱帯によって、指につながる神経（正中神経）が圧迫されることで起こります。原因は不明ですが女性に多く、透析や手首の骨折なども原因となります。



【治療】

軽症や初期段階は手首を装具で固定したり、ステロイド薬の注射で治ることがあります。

改善が見られない場合には重症化する前に手術をお勧めします。



イラスト：日本手外科学会HP「手外科シリーズ」より引用

専門医からのワンポイントアドバイス

① 42℃のお湯に10分間

手のしびれがある方は、朝に42℃のお湯に10分間手を入れてください。血流を良くしてから一日を生活するとしびれが軽減します。また自律神経も整えることができるので効果的です。良くならない場合は手術という選択肢もありますので、お気軽にご相談ください。

② 貯金より貯筋！

現代人は運動不足の人が多いので、週に1～2回は1万歩を歩きましょう。歩くことは全身運動になりますので、とても大切です。

今後の目標や展望を教えてください。

全ての患者さんが笑顔になれるような活動が目標です。まず、医療レベルを向上させることが重要です。優れた手術や治療を行うことで患者さんの回復が促され、笑顔になる機会が増えます。常に最新の情報や技術を学び、質の高い医療を提供することが求められます。次に患者さんへの接し方も重要です。パソコンや書類に集中するだけでなく、患者さんの顔をじっくり見て、笑顔で接することが大切です。患者さんが安心感や信頼感を抱けるようなコミュニケーションを心掛けます。そのためには医療者自身が笑顔でいることも重要です。今後も最善かつ最高の医療を提供できるよう日々の努力と研鑽を重ねていき、最大幸福を追求してまいります。

先生の事をもっと知りたい！

●医師を志した理由は何ですか？

子どもの頃から漠然と憧れていたものの、自分には叶わないと思っていた医師の道。漫画『ブラック･ジャック』の影響で、神様のような力を持つ外科医に憧れを抱いていました。しかし、高校時代はバレーボールに没頭し、成績は低迷していたため高校3年生の担任からは、「もし合格したら、逆立ちで校庭1周してやる」とまで言われるほどでした。それでも、浪人期間を猛勉強で乗り越え、なんとか大学に合格することができました。

●患者さんを診察する際、大切にしていることを教えてください。

笑顔です。Open mindで診療を行い、The Patient is always right.の精神で患者さんを笑顔にすることが私の使命だと思って、日々診療に取り組んでいます。

●なぜ整形外科の医師を専攻したか教えてください。

子どもの頃からバレーボールをしており、左小指PIP関節脱臼、足関節捻挫、膝棚障害など数々のケガをして整形外科にお世話になっていました。今でも小指が曲がって時々外れそうになります。その経験から骨折を治したり、脱臼を整復したり、神経や腱の縫合など整形外科の仕事が社会に役立つと思い専攻しました。

●休みの日の過ごし方を教えてください。

最近は、料理教室ですね。一宮市の広報に載っていた「男の料理教室」に申し込み、そこで学んだ料理を家でも作って楽しんでいます。元々そばが好きで、かつて信州で働いていた経験もあり、子どもと一緒にそば打ちをしたりして楽しんでいます。

詳しくは、地域医療連携室までお問い合わせください

社会医療法人大雄会
地域医療連携室

<TEL> 0586-26-2366 <FAX> 0586-24-9999
受付時間 ▶ 月～金曜 ／ 8:30～19:00、土曜 ／ 8:30～12:30 ※祝日･年末年始は除く。